

ぬかづけ 日記 連載⑧



白糠町のPRのことばかり考えるわたし
白糠漬けの日常より。

地域おこし協力隊

キタダ ジュンコ
北田 純子



Profile

1973年11月23日生まれ。
千葉県千葉市出身
2019年4月から白糠町の観光をPRする地域おこし協力隊として着任。
趣味は映画鑑賞、読書、アウトドア。

■北田純子ブログ

「シラスカAtoZ」

<https://shiranuka.wixsite.com/atoz>



謹んで新年のお喜びを 申し上げます。

新年が明けてからだいぶ日にちが経ちましたが、今年初回のコラムということで、改めてご挨拶させていただきます。

昨年中は白糠町の皆さまより、あたたかいご支援やご理解を賜り、厚くお礼を申し上げます。取材をさせて頂きくださった皆さま、温かい親交を育ませていただいている皆さま、町内の行事や集い、清掃活動などで一緒にいただいた皆さま、声をかけてくださる皆さま、こちらのコラムをご覧いただいているみなさま…。思い返せば本当にたくさんの方の白糠町民の方にお世話になっていると実感いたします。今

年も皆さまのご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。本年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

祖母の銘仙を着て 感じたこと、思ったこと

高校時代に弓道部に所属していたためか、以前から和服が好きで、35歳以降は「1月1日は着物を着て過ごす」という習慣を続けています。

今年合わせた長羽織は、母方の祖母の銘仙を仕立て直したもので、反物として織られてからおそらく70年以上は経っているそうなのです。しかし、そのモダンな柄と洗練された色合わせが放つ魅力は凛

と美しく、時を重ねても色あせることはありません。逆に、時を重ねたからこそ増したのが生地の手触りです。戦後の銘仙は戦前に比べて絹の質がどうしても下がるため、柔らかさに欠けるものが多いのですが、この銘仙は何度も袖を通し洗い張りをされたおかげか、ほどよい柔らかさで私を包んでくれます。私もこの銘仙のように、時代に左右されない自分の芯を持ちつつ、人をそっと包み込める優しさで柔らかさを持てるようになりたいと思います。

おもしろかった あの3冊

①「地学のススメ」

鎌田浩毅



この年末年始は久しぶりに「みそ」を仕込みました。完成が待ち遠しいです。

②「ずうのめ人形」 澤村伊智
③「よいこの君主論」 架神恭介
／辰巳一世（ちくま文庫）

③は中身を知らずにタイトルだけのチャレンジ買いをしたのですが、小学校のクラスの覇権争いを通じてマキャベリの君主論を学べるおもしろ本でした。

